

「女性アスリートの育成・支援プロジェクト事業」ロジックモデル

現状

- ・女性アスリートは、エネルギー不足、無月経、骨粗鬆症といった三主徴をはじめとする健康課題や出産、育児などの阻害要因により競技の継続が困難になる現状がある
- ・ナショナルレベルのコーチは、男性の割合が高く、女性が活躍できる環境が整っていない
- ・中高生の学校部活動などにおいては、女性の健康課題に配慮された指導が行われていない

課題

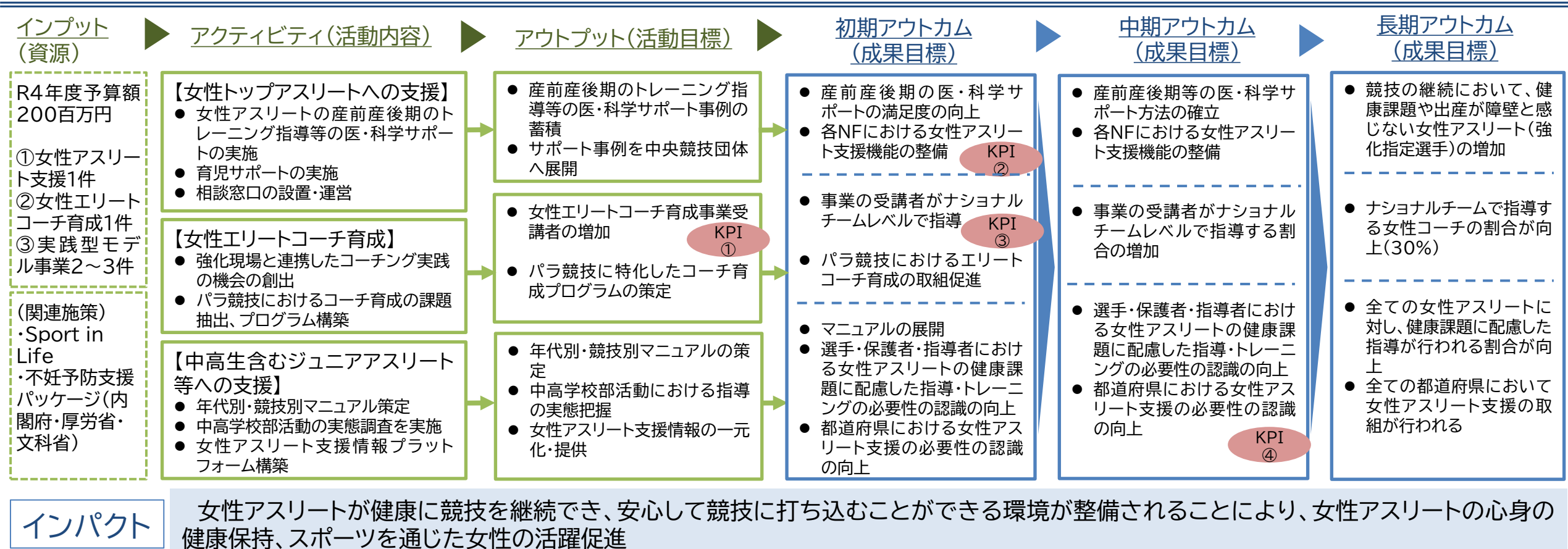
- ・女性アスリートの健康課題への認識は高まりつつあるものの、各競技別の健康課題に配慮したトレーニング方法や産前産後期におけるトレーニング方法が確立していない
- ・女性エリートコーチの育成については、実践機会が十分に得られない現状やパラ競技における育成手法が確立していない
- ・学校部活動の指導者の女性の健康課題に配慮した指導に関する知識が不足しており、地方自治体における支援体制も整備されていない

本事業の目的

- ・競技の特性と産前産後を含む女性アスリートの健康課題を踏まえたトレーニング方法の開発、女性の視点とアスリートとしての技術を兼ね備えた女性エリートコーチの育成プログラムの実施、中高生を含むジュニア層への女性の健康課題を踏まえ指導に必要な情報提供体制を構築することで、女性アスリートが健康に競技を継続できる環境の充実に努める

(現状・課題を示すデータ)

- ・オリ・パラに出場したママアスリートの人数
リオ大会:9名、東京大会:16名
- ・東京大会日本選手団における女性コーチの割合
オリ14.3%、パラ24.2%
- ・女性アスリート支援に取り組む中央競技団体74%
- ・女性アスリート支援に取り組む都道府県51%
- ・中高等学校部活動における女性アスリートの健康課題に関する選手・指導者の実態調査を実施(R4年度)



測定指標と目標値

KPI ① ・女性エリートコーチ事業受講者の延べ人数(R4年31名⇒R5年47名)

KPI ② ・産前産後期のトレーニング指導等の医・科学サポートの満足度 (R6年80%⇒R8年100%)
・各NFにおいて、女性アスリート支援に関する委員会及び担当者等が配置される (R6年90%)

KPI ③ ・女性エリートコーチ育成事業プログラム受講者がナショナルレベルで指導 (R3年30%⇒R4年40%⇒R6年50%)

KPI ④ ・中高等学校部活動における選手・指導者の女性アスリートの健康課題に配慮した指導・トレーニングの必要性の認識の向上 (R4年実態調査の結果を踏まえ設定)